

アカデミック・サポートセンター(ASC)の近況などを報告します。第7号では、2012年度の進路相談や学習サポートなどの活動報告と大学院生チューターの体験記事を中心にお届けします。また、第3回アカサポ・コラムを掲載します。

2012年度ASC利用状況

表 年度別ASC利用人数(2月28日時点)

年度	2011	2012(年増加率)
進路・修学相談	446	559(25%; 暫定)
学習サポート	2228	2577(16%)
スキルセミナー	81	158(95%)

*延べ人数

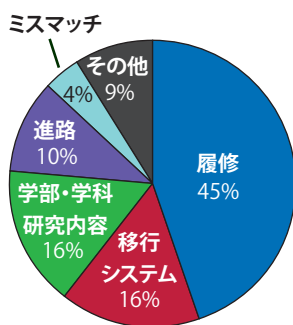


図1 進路・修学相談内容

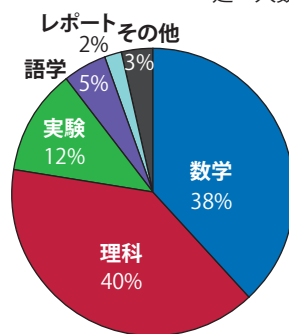


図2 学習サポート相談内容

2013年2月末時点の、ASC利用者数(延べ人数)は左表の通りです。

相談・質問、スキルセミナーのすべての項目で利用者が前年度を超えています。今年度4月の進路・修学相談者が比較的多かったこと、中間・期末テスト期間の学習相談者が増加したことが、要因と考えられます。3月は総合入試学生の移行振り分け期間です。進路・修学相談はさらに増加する見込みです。

進路・修学相談と学習サポートにおける、内容の内訳を円グラフ(図1、図2)で示しました。

相談・質問内容の傾向は昨年度と大きな変化はありません。履修についての相談と理数系基礎科目の質問が多く寄せられました。

チューター体験記 2012

物理・数学・統計担当 修士2年

今年度は、学習サポートをレポートの解答を作ってもらい場と認識している学生が多かったと思います。また、問題を解くプロセスに興味の無い学生が、少数ながらいることは残念でした。担当教員の方には、レポート課題の曖昧な表現を避けて頂きたいと思います。学生の主体的な解答を見たい等の意図があるならば、出題の際にその旨を周知して頂きたいと感じました。

チューターをはじめて一年近く経ち、仕事に慣れ、よりよい対応ができるようになったと感じています。その一方で、意欲が無く、解答のみをほしがるような学生の対応に窮してしまいます。そのことについて、他のチューターさんたちと議論が出来れば有意義だと思います。

数学・統計担当 修士2年

二期は「線形代数学」や「微分積分学」で慣れない概念が登場し、戸惑う学生が多く見られました。そのため「重積分が分かりません」のような曖昧な質問を受けることがありました。そのような時、会話の中で質問内容を整理し、相手は何が分かれば納得するのか、それをどう説明するか、を考えることが必要になります。これはアカデミックな場面以外でも求められる能力で、チューター業務を通してその能力を磨くこと

が出来たのは、大きなメリットでした。

前学期に比べ、自習スペースの常連が増えたようですが、学習サポート室に入りづらい学生もいるようです。個別の質問対応以外の(スタディ・スキルセミナーのような)サポートが増えると、入りやすくなると思います。

英語・文系レポート担当 修士2年

学習サポートでは、その場しのぎの指導にならないように気を付けました。正解を教えるのは簡単ですが、それだけだと、サポートというよりはカンニングのようなものになってしまいます。その結果、レポートやテストで高い評価を得ても、長期的に見て学生のためにならないと思います。目標とする学習サポートは、その子がいつかサポートなしに問題を解決できるようになることであると考えました。

しかしながら、目標のサポートはなかなかできませんでした。私自身が、もっと専門分野や指導術に関して積極的な学習者であるべきでした。一方、学生たちももっと主体的に学習に臨んでくれたらいいのにと感じました。せっかくの才能が、受動的な学習態度により十分に発揮されないのはもったいないと感じました。

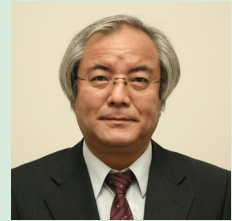


アカサポ・コラムはASCスタッフの生の声をお届けします。第3回は、アカデミック・アドバイザー*の板垣先生のコラムを掲載します。*ASCでは、学部横断的な進路相談に対応するアドバイザー(兼任教員)を配置しています。

「進路選択にあたって」

板垣 正文

アカデミック・アドバイザー
工学研究院 教授



今年度、総合入試を経た初の2年生が、私のいる工学部にも配属されました。昭和40年代に同様のシステムである「理類」に入学した私にとって感慨深いものがあります。総合教育部のークラスに様々な志しを抱く若者達が一堂に会することの意義は大きいと思います。一方、このシステムの欠点は、本意でない学科・コースに配属を余儀なくされる学生が少なからず生じてしまうことです。

私が2年生だった時の学部移行に際しては、学生は成績順にA, B, C, D, Eにグループ分けされました。理類では理学部の物理、地球物理、工学部の建築、電子工学科がAグループだけで定員に達しました。成績不振の学生はグループ名をAho, Baka, Crazy, Deluxe, Eliteのように自虐的に読んだのを覚えています。失礼になりますが、農学

部や獣医学部へはDeluxe, Eliteコースの学生でも余裕で行けました。当時の人気・不人気学科と現在のそれらは、ほぼ逆転に近い傾向であることに気づきます。翻って、今日の人気学科が将来とも有望な学科であり続けるとは言えないのです。

かつて鉱山工学を修めた者の多くは石炭会社のエリートとなりましたが、主要なエネルギー源が石油に代わると事態は一変しました。近隣諸国が安価な労働力を造船に向けると、世界一の造船国だった日本に深刻な造船不況が到来します。私の学生時代、原子力は薔薇色のイメージで語られましたが、今日、そのイメージの変貌はご承知のとおりです。最近まで脚光を浴びていた半導体、IT関連の分野も今しばらくは元気がないようです。しかし、新しい分野は勃興し続けますし、一度衰退した分野が質と形態を変えて

復活する場合があります。国内大手の造船各社は開発の矛先を付加価値の高いもの、知識集約型に転換することで生き延びています。自動車産業が好況、不況を繰り返しつつも存続しているのは経営努力の他に、将来への技術開発を怠らないからでしょう。

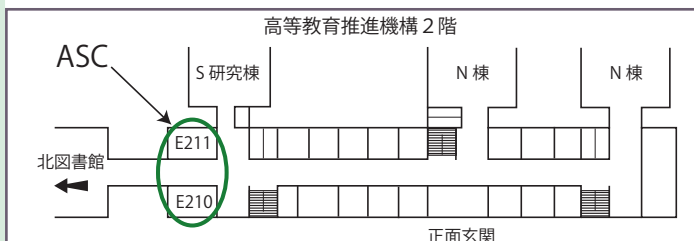
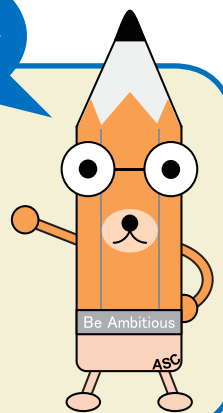
学部・学科・コースの志望先の選択にあたっては、目先のイメージに囚われることなく、自分が真にやりたいこととの繋がりを可能な範囲でとことん調べてみることを勧めます。「好きで選んだ道だから決して後悔しない」と誓えるなら、それはこれからの人生において心強い指針となるでしょう。お時間があれば、私のところへも気軽に越してください。大学でないとところで20年間の社会人生活を送った私の経験が幾らかでもご参考になれば幸いです。

よろしくね

ASC公式キャラクター「あかさぼくん」誕生

広報の一環として、公式キャラクターを作成しました(右イラスト)。学生に、ASCをより身近に感じ、気軽に相談・質問できる場所として認知してもらおう狙いです。

キャラクター名は学生からの投票により決定しました。その結果、「あかさぼくん」が選ばれました。今後「あかさぼくん」は、本紙アカデミック・サポートセンターニュースなど、ASC作成の配布物等に登場します。ASCと「あかさぼくん」をよろしくお願いたします。



アカデミック・サポートセンター

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目
北海道大学 高等教育推進機構 2階
E210(相談) / E211(学習サポート)

T E L 011-706-7526

E-mail asc@high.hokudai.ac.jp

U R L <http://asc.high.hokudai.ac.jp>



2013年3月15日発行